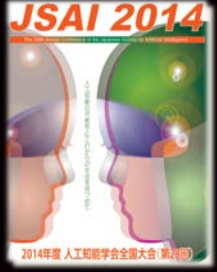


映画「トランセンデンス」共同特別企画 ～ エヴリンの夢 ～



5月14日 (水) 15:30-17:30 (開場: 15:10)
会場: 愛媛大学 (ひめぎんホールより徒歩12分)
一般参加無料 (予約不要)

大会参加者向けの
交流会場
へも便利

※ネット等でのリアルタイム配信も検討中です (12日以降に大会サイトでご確認下さい) 大会サイト <http://www.ai-gakkai.or.jp/jsai2014/>



■パネルおよび講演の概要

近年の急速な人工知能 (AI) の発展を背景に、多くのAI研究者により今世紀中にAIが人の知能を越える「シンギュラリティ (技術的特異点)」を迎えうると考えられています。そんな折、6月28日にシンギュラリティの瞬間をこれまでにないリアルに映像化したジョニー・デップ主演映画「トランセンデンス」が公開されます。人を越えたAIは、その知能により人類の科学技術を大きく加速し莫大な富をもたらします。そして「意識」さらには「心」を持つことにもなりそうです。

こうしたAIが現れた時に社会はどのように変化し、人類は彼らAIに対してどのような感情を抱くのでしょうか？本セッションではパネル討論を中心として映画のワンシーンを織り交ぜつつ、AIの急速な発展の先に見る未来像について、強いAIや脳科学などに関わるAI研究者を中心とした熱いパネル討論を行います。

■講演者およびパネリスト

- ・松田卓也 (NPOあいんしゅたいん)
- ・堀 浩一 (東京大学)
- ・我妻広明 (九州工業大学)
- ・市瀬龍太郎 (国立情報学研究所)
- ・一杉裕志 (産業技術総合研究所)
- ・栗原聡 (電気通信大学)
- ・山川宏 (富士通研究所)

アクセス: 愛媛大学 (共通教育棟北別館 4階 北41番教室)



赤枠の建物の四階です。



©OpenStreetMap contributors (ODbL, CC-BY-SA) <http://www.openstreetmap.org/>



愛媛大学
大学院理工学研究科
ICTスペシャリスト育成コース

主催: 人工知能学会, 共催: 愛媛大学
大学院理工学研究科ICTスペシャリスト
育成コース, 提供: ポニーキャニオン,
企画: 汎用人工知能研究会 (SIG-AGI)



パネリスト紹介

名前(所属)	名前(所属)
松田卓也 	NPO法人あいんしゅたいん副理事長, 神戸大学名誉教授, 中之島科学研究所研究員, ジャパン・スケプティックス会長, 元日本天文学会理事長. 相対性理論, 宇宙物理学, 回転流体力学, 宇宙の数値シミュレーション的研究を行ってきた. 現在は人工知能の人類社会に及ぼす影響に関して, 広く勉強して評論活動を行っている. 著書として「相対論的宇宙論」(講談社ブルーバックス, 共著), 「これからの宇宙論」(講談社ブルーバックス), 「正負のユートピア」(岩波21世紀問題群シリーズ), 「2045年問題…コンピュータが人類を超える日」(廣済堂新書)など.
堀浩一 	東京大学大学院工学系研究科教授. 2008年-2010年人工知能学会会長. 2010年-人工知能学会顧問. 知識処理システム構築のための知識獲得の困難に直面したのち, 研究すべきは, 知識の獲得ではなく知識を作り出すことの支援であると考えようになり, 創造活動支援システムの研究を行ってきた. 著書「創造活動支援の理論と応用」(オーム社2007年). 人間がもっと創造的に仕事するための道具としての人工知能の研究を行ってきたが, 単なる道具では済みそうになくなってきたので, 最近では人工知能倫理の問題にも興味を持っている.
我妻広明 	九州工業大学大学院生命体工学研究科准教授, 理化学研究所客員研究員. 2000年から理化学研究所脳科学総合研究センター「脳を創る」領域, 知能アーキテクチャ研究グループ内研究チームに所属し, 2009年から現職. 非線形力学系に注目した理論脳科学の立場から脳型コンピュータを設計開発し, ロボットに実装する脳型ロボット研究に従事. 著書・論文として, Neuromorphic and Brain-Based Robot (coauthor with J.Krichmar, Cambridge University Press, 2011), 分散制御から知能創発の工学化への視点 (コンピュータソフトウェア, 2011, 日本ソフトウェア科学会解説論文賞), 実世界における脳の数理モデルの貢献-情報工学・ロボット工学との融合を考える (日本神経回路学会誌, 2009, 創立20周年記念論文賞) 等.
市瀬龍太郎 	国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系准教授. 総合研究大学院大学複合科学研究科准教授. 東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了. 博士(工学). 知識処理の研究, 特に, セマンティックウェブ, 機械学習, 知識発見などの研究に従事. 現在, 人間に代わってコンピュータが, 大量の情報の中から必要な知識を取り出し, まとめあげ, 利用できるようにする技術を中心に研究. また, 汎用人工知能技術にも強い関心を持つ. 汎用人工知能研究会, 発起人の一人. 人工知能学会代議員, 編集委員会シニア編集委員.
一杉裕志 	産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 主任研究員. 東京大学大学院情報科学専攻博士課程修了. 博士(理学). 1993年 電子技術総合研究所(2001年より産業技術総合研究所)入所後, 自己反映計算, 並列・分散プログラミング言語, 拡張可能システム, ソフトウェア工学の研究に従事. 2005年より計算論的神経科学の分野における大脳皮質ベイジアンネットワークモデルを研究. 全脳の情報処理アーキテクチャの解明を通じて, 人類の役に立つ「人間のような知能」の実現を目指している. 人工知能学会, 日本神経回路学会, ACMの会員. 全脳アーキテクチャ勉強会オーガナイザ, 汎用人工知能研究会メンバ.
栗原聡 	電気通信大学大学院情報システム学研究科教授. 慶應義塾大学大学院卒. NTT基礎研究所, NTT未来ねっと研究所を経て2013年より現職. マルチエージェント, ネットワーク科学等の研究に従事. 著書『社会基盤としての情報通信』(共立出版). 翻訳『群知能とデータマイニング』(東京電機大学出版)等. 博士(工学). ACM, 人工知能学会, 日本ソフトウェア科学会, 電子情報通信学会, 人間情報学会, ESHIA, 各会員. 人工知能学会理事を歴任. 現在日本ソフトウェア科学会理事. 人工知能学会編集委員会副編集委員長.
山川宏 	富士通研究所研究員. 人工知能学会理事およびシニア編集委員. 神経回路による強化学習モデル, 概念学習, 認知アーキテクチャ等の研究を経て, 現在は脳の計算に学ぶことで人間レベルの汎用人工知能の実現を目指している. リアル・ワールド・コンピューティングプロジェクト, プロ棋士の脳活動を測定する将棋プロジェクト等にも参加. 特に人工知能分野における基本的な問題として知られるフレーム問題を機械学習により解決する技術を研究している. パターン認識と機械学習(丸善, 共訳). 人工知能学会誌での特集「シンギュラリティの時代: 人を超えゆく知性ととともに」(vol.23, no.3, 2013), 特集「汎用人工知能への招待」(vol.24, no.3, 2014)の企画者. 全脳アーキテクチャ勉強会オーガナイザ, 汎用人工知能研究会の発起人の一人.